

MIS036-P107

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 14:15-16:15

2011年4月11日福島県浜通りの地震に伴う湯ノ岳断層の地表変位ベクトル Surface slip vectors along the Yonotake fault during the April 11, 2011 earthquake of Mj 7.0 at eastern Fukushima

栗田 泰夫^{1*}, 楮原 京子¹, 杉山 雄一¹, 吉岡 敏和¹, 吾妻 崇¹, 安藤 亮輔¹, 丸山 正¹

Yasuo Awata^{1*}, Kyoko Kagohara¹, Yuichi Sugiyama¹, Toshikazu Yoshioka¹, Takashi Azuma¹, Ryosuke Ando¹, Tadashi Maruyama¹

¹産総研 活断層・地震研究センター

¹Geological Survey of Japan, AIST

2011年4月11日福島県浜通りの地震(Mj 7.0, Mw 6.8)に伴って、既知の活断層である井戸沢断層と湯ノ岳断層に沿って顕著な正断層型の地震断層が出現した。このうち、湯ノ岳断層に沿ってあらわれた地震断層について、地表変位ベクトルの詳しい計測を行うとともに、その末端部について詳しい調査を行った。

地震断層は、N55W走向で長さ15.6kmの正断層型の地震断層であり、北西端はいわき市遠野町入遠野白鳥付近(37°39.94'N, 140°40.59'E)から、また南東端は常磐白鳥町付近(36°59.16'N, 140°49.91'E)まで延びている。断層は、概ね直線的であるが、北西部はN65W走向でやや湾曲し、また南東部では末端から約3km付近にN60Eの走向で長さ約800mのギャップが認められ、ギャップの両側付近には主断層から屈曲あるいは分岐して北東側に約300-800m延びる2条の副断層を伴っている。

変位のベクトルは、断層主部の10-14kmでは概ね一様で、約40-60cmで南西下がりの鉛直成分と、約30-50cmでS30-45W方向の水平成分をもち、約30-60°南西に傾斜する。南東部では末端の800m区間で変位量が急減し、北西部では末端の約2-5km区間で変位量が漸減する。南東部のギャップでは2条の副断層で挟まれた下盤側の地域が15-30cm程度相対的に沈下している。

キーワード: 2011年4月11日福島県浜通りの地震, 地震断層, 湯ノ岳断層, 変位量分布, スリップベクトル

Keywords: east Fukushima earthquake of April 11, 2011, surface rupture, Yunotake fault, slip distribution, slip vector